

新年のご挨拶



2019年1月
尾家 祐二

国際社会で活躍し続ける人材の育成と 国際競争力のある研究活動の推進

学内外における 様々なネットワーク と 独自の実行力 を駆使



本学の社会的価値を高め、新たな価値を創造

社会は、地域、国内、国外、学术界、産業界、自治体など、多様な要素から構成されており、時代とともに、また、状況に応じ、その特性、要求等は変化する。そのような社会の中にある大学として、時間と空間の拡がりを意識した取り組みを行う。

個人力を、組織力に

(九工大の価値を高め、共有する取り組みを推進)

施策 ①

各構成員が有する様々なつながり、ネットワークを組織のネットワークに発展させ、共有し活用できる施策の展開

施策 ②

教育研究活動において、実績を上げ、変換し続けることができる独自の実行力を、組織的に支援し推進する施策の展開

<p>対話 ネットワーク 情報発信</p>	<ul style="list-style-type: none">◆学長記者懇談会（3回/年程度開催。毎回10社程度の報道機関が来学。）◆経営協議会（飯塚キャンパス開催にて、地域連携活動の報告。）◆自治体との連携（災害時の避難場所（協定）、飯塚でのプログラミング教育、北九州フィルムコミッションへの協力など）◆学生プロジェクトへの協力企業の増加◆<u>高等専門学校や海外の大学に勤務している卒業生との共同研究を支援する制度の継続</u> ⇒ 2016年度：7件、2017年度：13件、2018年度：31件◆NICTとの包括的連携協定の締結（NICT理事長と今後の相互協力を確認）◆地方大学・地域産業創成交付金の採択決定（北九州市、FAIS、安川電機）◆明専会との連携（総会や各支部会へ出席し大学近況紹介）◆大学PR動画（日・英）を制作。端的に大学の概要を視覚的に発信。
<p>研究</p>	<ul style="list-style-type: none">◆組織的産学連携「共同研究講座」新たに6件開設し、計8件が稼働中◆共同研究の活性化（実績額対前年『1.56倍』、8月時点で前年実績を更新）◆ジョイントリサーチプログラム：UPMと2件、台湾科技大と6件。◆研究力強化支援事業公募。11件採択◆イノベーション推進機構を改組⇒より機動的に。
<p>教育・学生</p>	<ul style="list-style-type: none">◆学部改組。情報工学部全面改組、工学部宇宙システム工学科新設。◆高大接続・教育連携機構の設置⇒入試改革や、STEM教育への対応◆国際共同研究指導制度：11件◆H29年度、海外派遣学生615名（日本人学生の外国留学者比率⇒国立で5位）◆ダブルディグリー：フランスへ2名派遣◆学生プロジェクトチーム：家庭用ロボットの世界大会で3度目の優勝
<p>環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none">◆任期付き職員の無期化、正規職員への登用など人事面における改革◆技術職員の昇任制度の整理◆事務職員によるジョブチャレンジ制度の開始◆教育職員へのアンケート調査の実施

人事に関する制度をより柔軟にし、多様性を認め、より働きやすい職場環境の実現へ。

教育職員

- ◆ 教育職員対象のアンケート調査の実施（執行部との対話の機会を促進）
- ◆ 教育研究活動の充実を促進する環境の構築（委員会の整理、事務組織の機能強化）

技術職員

- ◆ 昇任制度の拡充
優れた専門能力により高い貢献をしている者を評価
→技術専門員へ

技術専門員、技術専門職員への昇任基準を策定。

事務系職員

- ◆ 有期職員の無期化
パート職員の無期化（H30より開始）⇒H31.4までに37名が無期化の予定

業務支援職員の無期化（H30年度より開始）⇒H31.4までに複数名が無期化の予定

業務支援職員の正職員への転換
H30.4に1名、H30年度内に1名（今後は毎年実施予定）
- ◆ 人事制度改革マラソンの継続

産業界とのつながり

- ◆ **110周年を契機に、より産業界とのつながりを密接に。**
⇒「九工大の研究力」をテーマにした、110周年記念フォーラムを東京で開催。OBを含めた産業界へ「本学の現況、シーズ」などを示し、今後の連携を目指す
- ◆ **産業界と連携した教育プログラムの開発、共同実施**
- ◆ **学生プロジェクトへの理解を求め、支援企業を増やす**
- ◆ **産学官連携による「未来を思考するキャンパス」を発信**
⇒ アイディアボックス（無人店舗）の実証
⇒ さまざまな分野とつながり、積極的に九工大の研究力をアピール
- ◆ **キャンパス内を産業界にも解放**
⇒ 共同研究講座の拡充（計10件の講座実施）
- ◆ **産業界の声を、教育現場へ**
⇒ 産学連携教育審議会を継続、経営協議会の場も活用し、産業界のニーズに応える教育プログラムを検討

海外大学とのつながり

- ◆ 『数』から『質』へ。協定大学との関係性を深化させ、より質の高い派遣プログラムを構築

⇒連携を活用した学生派遣の安定運用（毎年600名程度の派遣）

⇒国際共同研究指導制度のさらなる活用

- ◆組織的共同研究（ジョイントリサーチプログラム）の拡充。

⇒UPM、台湾科技大に続き、新たな連携を実現。

- ◆海外大学と連携した教育プログラムの開発、実施

社会とのつながり

◆入試改革/ニーズに則した教育への対応

- ⇒AO入試、学部入試としては初の学外（大阪）での実施
- ⇒「共通テスト」へのスムーズな移行の準備
- ⇒BYODの全学実施開始

◆STEM教育への支援

- ⇒初等中等教育との接続のための事前教育、
- ⇒地域社会のニーズを踏まえたSTEM教育への支援

◆九工大の価値をより広く周知

- ⇒110周年を契機にした広報活動を展開
- ⇒本学の研究力を広く一般にも理解できる形で発信
- ⇒メディアを意識し、海外へのチャンネルも模索

学内のつながり

- ◆ 「安心と誇りをもって働ける職場」へ。
～制度面の検討・構築、コミュニケーションを促進する
取り組みを実施～

⇒教員へのアンケート調査を分析し、改善点の洗い出し

⇒教育職員の「新年俸制」導入

⇒人事制度改革マラソンによる制度設計（事務職員の新人事制度
スタート）

⇒ジョブチャレンジ制度によるモチベーションアップ

⇒「学報」の改革による学内情報共有の促進

2019年は、

- ◆ **創立110周年**
- ◆ **大学院改組（工学府1専攻化）**
- ◆ **飯塚キャンパス講義棟改修**
- ◆ **第3期の4年目/6年間**

**学内が結束し、多様な知恵を受け入れ、活かし、
魅力的な大学で在り続けましょう**

**みなさまにとっても、大学にとっても、本年も多くの良
き機会に恵まれ、実り多く飛躍できる年でありますよう
お祈りします。今年もよろしくお願いいたします。**